

■柳家小さん(3代) 落語家。夏目漱石が作中人物に“小さんは天才だ”と言わせ、長期に人気、多くの門弟を育てた。

やなぎやこさん

蕃書調所・1857＝ 江戸小石川鷹匠町で一橋藩士の家に生まれる。

桜田門外変・1860＝ 3歳：

薩長同盟・1866＝ 9歳：

林逸齋の漢学塾から大学南校に学ぶが、

明治維新・1868＝11歳：

労症の気味で、音曲を習いはじめたところから遊芸にのめりこみ、

学問のすすめ1872＝15歳：家督相続したものの道楽が過ぎて勘当となった。

明治6年政変 1873＝16歳：

初の民間工場1875＝18歳：この頃、常磐津の太夫となり家寿太夫を名のる。

西南戦争・1877＝20歳：

小文字太夫時代の名人初代常磐津林中について芝居に出勤したが、

明治14年政変1881＝24歳：

岩倉具視没・1883＝26歳：この頃、初代柳亭燕枝門で燕賀となり、すぐに3代春風亭柳枝門に移って燕花となった。引き立ててくれた2代柳亭燕路が早死にしたためいったん廃業するが、

秩父事件・1884＝27歳：

帝国大学始・1886＝29歳：この頃、3代目柳枝の先妻東家小満之助が4代都々一扇歌と改めた際、その門で都川歌太郎となって再勤。

初の対等条約1888＝31歳：2代小さん門に移り小さん次(後に字を小三治)とあらため、

帝国憲法発布1889＝32歳：

大本教・1892＝35歳：*真打となった。

郡司千島探検1893＝36歳：

日清戦争始・1894＝37歳：

日清戦争終・1895＝38歳：*日本橋木原亭のトリをつとめるにさいし、初代燕枝・神田立花亭主人の斡旋により師の小さんが柳家禽語楼とあらため、その3代目をゆずられた。

訥々としたなかに自然の滑稽味を生む芸風と余技の音曲で大いに人気をとり、40過ぎには三遊派の初代三遊亭円遊とならび称される柳派の代表選手となる。

教科書疑獄・1902＝45歳：

日露戦争終・1905＝48歳：*落語研究会設立には柳派からただ一人発起人に連なり、その中心として活躍。

「基泥」「猫久」「寝床」「言幸兵衛」など本格的落し噺の名手として評価を高めた。「うどんや」「らくだ」など上方噺を東京へ移したことも功績とされる。

大逆事件判決1911＝54歳：

明治天皇没・1912＝55歳：

大暴落・1920＝63歳：

原敬首相暗殺1921＝64歳：

関東大震災・1923＝66歳：この頃から、脳軟化症によるボケが始まり、

護憲三派圧勝1924＝67歳：この年から3年、東京落語協会会長に就任するも、

話が混乱する悲惨な姿を晒しながら、高座に上がり、

金融恐慌・1927＝70歳：

共産党事件・1928＝71歳：*引退披露、

世界恐慌・1929＝72歳：自宅を出たまま行方不明となり、翌日、公園で子供と遊んでいるところを発見されたりして、

海軍軍縮条約1930＝73歳：没した。